

★今週の聖句

喜びなさい。大いに喜びなさい

マタイによる福音書 5章12節

★ねらい

- 『山上の説教』は内容豊かなもので、幼児や低学年に向けての話しになると難しく成り易くなると思います。ここでは、神さまを頼ることの大切さ、神さまを信頼し続けることの大切さが大きなテーマとなっているように思われますので、その点を踏まえた上での大胆さも必要かも知れません。

★説教作成のヒント

- 『山上の説教』はとかく教訓話し、倫理観の話しに傾き易い傾向があると思われます。もちろん、それらも無視できないものですが、まずは、神さまが成してくださっていることに気付かせることが大切のように思われます。その上で、このマタイによる福音書の特徴の一つである「イエスの弟子」ということを、どのように子供たちに自然な形で促していけるか、が大切になってくるのではないのでしょうか。また、これは全体的に言えることだとも思いますが、聞き手をどのように引きつけるか、ということは重要なことです。その一つが「共感」ということでしょうか、「驚き」も大切なことのように思われます。特に今回のようなテキストは逆説的ですので、本来は「驚き」をもって受け止められるべきものですが、私たちは慣れてしまって、その「驚き」を見落としているのかも知れません。

★豆知識

- 今日のところの「幸い」と訳されている言葉は、ギリシャ語の意味としては「なんて幸運なのでしょう…」といったニュアンスの言葉のようですが（だから happy と訳す英語訳聖書もある）、しかし、もともとイエスさまが用いられたであろうヘブライ語的用法では、単なる「幸運」ではなくて、神さまとの正常な関係性から生まれる「幸い」（英語では blessed）といった意味合いのようです。（『現代聖書注解』マタイによる福音書 78-79 頁）

★説教

みんなはイエスさまのお話し聞くの好き？

聖書を読むと、大人も子供も、男の人も女の人も、おじいちゃんもおばあちゃんも、ほんとうにほんとうに多くの人たちがイエスさまの話しを聞きたいって、イエスさまの周りにいつもいつも集まっていたんだって。今日の聖書のお話しは、そんな人々に、イエスさまが山の上でお話しになったよ、ってお話し…。

じゃー、どんなお話しをなさったんだろう…。「悲しむ人々は、幸い」です。えっ…。「悲しむ人」って、辛いことがあったり、嫌なことがあったりして、「悲しいよー」って泣きたくなるような人のことじゃない？ そんな人が幸せな人だなんて、ちょっと酷くない？

もし、みんなが、大好きな友だちと喧嘩しちゃって「悲しい思い」をしているのに、先生が「〇〇さん、良かったわね。あなたは幸せよ」って言われたら、「この先生はなんてこと言うんだ」ってムカってこない？ あるいは、学校（幼稚園）で辛いことがあって、お父さんやお母さんに「今日、学校でね、こんな辛いことがあって悲しんだ」って話しても、「そりゃー、良かったな…。おまえ幸せだぞ」なんて言われたら、どうだろう？ あるいは大好きだったペットが死んじゃったら…。やっぱり「悲しむ人が幸せ」なんておかしいよね。なんでイエスさまはこんなことをおっしゃったんだろう？

イエスさまはこうおっしゃりたかったんじゃないかな。「私を信じなさい。神さまを信じなさい。そうすれば、不思議なことが起こる。たとえ悲しいことが起こっても、幸せに変えられる」…と。そうなんだ…。たとえ悲しい事があっても、イエスさまが慰めてくださるから…、励ましてくださるから…、支えてくださるから…、何をすればいいかを教えてくださるから（例えば、友だちと喧嘩しちゃったときには、仲直りしなさい、ってね）…、イエスさまが僕たち私たちが大切に思ってくださっているから、悲しみが変わるんだ…。

えっ、本当かなー？、って…。そうだよ。信じられないよね。だって、悲しいときはやっぱり悲しいもん。でもね、先生もそうだった。辛くて、苦しくて、本当に悲しいとき、神さまに祈った…。イエスさまのことを考えた…。すると本当に不思議なんだけれど、悲しい心がずっと軽くなって、暖かく

なって、「あー、本当に神さま・イエスさまは私のことを守っていてくださるんだなー」って分かって、本当になんとか嬉しくなったんだ。

でもね、いつもいつもそうとは限らない。それでもやっぱり悲しくなっちゃうときだってある…。だからイエスさまはこうおっしゃるんだ。「喜びなさい。大いに喜びなさい」。つまり、「それでも、わたしを信じてほしい。いつも〇〇さんのことを見守っていることを…。〇〇さんの幸せを願っていることを…。〇〇さんのことをいつも助けたいと思っていることを…。決して〇〇さんのことを忘れてはいない、ということ、信じてほしい」っておっしゃっておられるのじゃないかな。だから、みんなも先生と一緒に、悲しいことや辛いことがあっても、どんなことがあっても、喜びに変えてくださるイエスさまを信じていて欲しいと願っています。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

- 60番
- 改訂34番
- Thuma Mina の23番

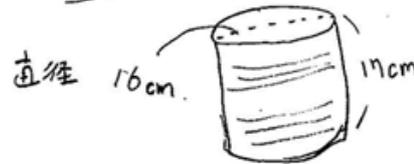
(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集) 詳細は [http:// www.kyobunkwan.co.jp/xbook/](http://www.kyobunkwan.co.jp/xbook/)

やってみよう

用意するもの: スーパーボール ⑤ 人数分

大きい空缶, 底の固い筒箱

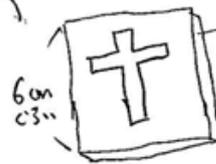
業務用の缶つめ等に使用しているのがベスト。



※ こうゆうのかわない場合は
くしゃくしゃにした新聞紙
もしくはタレでも可能

低反発ゴム, ウレタン

十字架を刻むもしくは分かつきに書く



方法

①

スーパーボールを空缶を並べて肩の高さから落しこめる。

②

中に入れたスーパーボールは底に付いたゴム。外に出るはず… (全部は入りっぱなし…)



③



缶の底に低反発素材の十字架の分かつきを入れた。

すると缶にボールは、くしゃくしゃ、喜びがある。



話してみよう

- ・最近、悲しいことがあったかな？
- ・その時は誰かに話した？ どうなった？
- ・悲しいことが変わって、幸せになったこと、あるかな？

★今週の聖句

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい マタイによる福音書 22章37節
--

★ねらい

- ・ 今日の日課は、非常に素晴らしい箇所の一つですが、しかし「掟」となると、これを守ることによって何らかの見返りが与えられる、あるいは、何らかの希望を叶えるために「掟」を守る、といった発想に成り易くなるように思われます。そこで、「掟」を理解するときにも、「恵みの先行」ということを強く意識し、その恵みに対しての応答として招かれている、という理解へ導かれる必要があるように思います。

★説教作成のヒント

- ・ 特に幼い子どもたちに語る場合、事柄の説明だけでは届きません。これが「掟」である以上、神さまがこの事柄を明確に望んでいる訳ですから、その神さまの望みは何かをしっかりと抽出し、子どもたちの日常、経験（僅かであっても）、感性に共感するような語り口が望まれます。もちろん、簡単なことではありませんが…。みなさんが接しておられる子どもたちの姿から、具体的な事柄を拾い出されてはどうでしょうか（喜びも悲しみも）。

★豆知識

- ・ ここに「心を尽くし」という言葉があります。一般に日本人の心の理解は「情（感覚）」的な面が強いように思われます。しかし、ユダヤ人にとっての「心」とは「情緒ではなく理解力」（『旧約聖書のこころ』雨宮慧著 女子パウロ会）だと言われます。また「愛」についても同様です。日本人にとって「愛」と「好き」とではさほど区別なく用いられることが多いように思いますが、欧米では「愛」は「意志」と考えられ、聖書的理解（ヘブライ語のヘセド）も「人と人とを結ぶ絆」であり、「その愛にとどまり続ける責任」をも意味すると言われます。このように、「心」も「愛」も情だけで揺れ動くようなものではないことを伝えることも（もちろん、小さな子どもたちには難しいことですが）、彼らが成長するに際して役立つ（信仰の事柄ばかりでなく人間関係においても）のではないのでしょうか。

★説教

みんなは好きな人っている？ だーい好きで、大切な人っているかな？ お父さん？ お母さん？ おじいちゃん？ おばあちゃん？ それともお友達（〇〇くん？ 〇〇ちゃん？）？ お家で飼っているわんわん？ ねこちゃんかな？

でも、もし、そんな大好きな人に、大好きなわんわん…、ねこちゃんに…、好きじゃないって思われていたらどうだろう…。大好きな〇〇くん（〇〇ちゃん）に、「一緒にあそぼ」っていても、「嫌だよ、君とは遊びたくない」って言われたら、すごく悲しいよね。「ねえねえ、お父さん、お母さん」って大好きなお父さんやお母さんに話しかけても、「いいから、あっちに行っていなさい」なんて言われちゃったら、泣きなくなっちゃう。可愛くて可愛くてしかたがないわんわんやねこちゃんが、ちっともなついてくれないと、本当に寂しくなっちゃう。やっぱり、大好きな人とは仲良しになりたいし、相手も自分のことを好きになってほしいな、って思うよね。神さまだってそうじゃないかな、って先生は思うんだ。もちろん、神さまはどんなときにも、私たちを愛してくださる。大切に思っていてくださる。僕たち（私たちが）、たとえ神さまのことをあまり大切にしていなくても、神さまのことをあまり考えもせず、感謝することが少なくても（実際に、僕たち・私たちの普段の生活ってそうじゃない？）、神さまは私たちを守ってくださり、必要なもの（食べるものも、着るものも、友だちも…）をいつも与えてくださっているよね。そう、神さまは僕たち（私たちが）いつも良い子にしている、神さまを信じてちゃんと生きているから愛してくださるのではなくて、たとえ僕たち（私たちが）が悪い子（本当は良くないよ）だとしても、神さまは愛し、大切にしてくださるんだ。でもね。やっぱり神さまだって、大好きな人とは仲良しになりたいんじゃないかな。大好きな人に好きになってほしい…、愛してほしいって願っておられるんじゃないかな。

じゃあ、神さまを愛するってどういうことなんだろう。それには、まず、自分が大好きな人にされたら嫌なこと、してもらったら嬉しいことを考えてみればいいと思う。たとえば、大好きな人、お父さん

お母さん、お友達に話しかけたとき、無視されたらどう？ 「ねえねえ、聞いて聞いて」…。 「ふん」(ブイッ)…。これはすごく辛い…。逆に、ちゃんと話しを聞いてくれたら、どんなに嬉しいだろう。「ねえねえ、聞いて聞いて、今日ね…」、「うんうん、へー、そうだったんだ」。ほらっ、なんだか嬉しくなってきた。神さまだってそうじゃないかな。神さまだって話しを聞いてほしいと願っておられる…。もっといえば、みんなとお話をしたいと思っておられる。それは、聖書を読むことやお祈りすることでもあるんだよ。あるいは、感謝すること。みんなだって誰かに何かしてあげたとき、「ありがとう」って言われたら嬉しいじゃない。あるいは、神さまがしてほしい、って願っておられることをしていくこと…。これも、神さまを愛すること…。神さまは大好きな人を大切にしてほしい、って願っておられるんだ。もちろん、みんなのこともそうだけれど、もっともっと多くの人たち…。世界中の人たちのことも大切にしてほしいって願っておられるんだ。それが、「隣人を自分のように愛しなさい」ということ。

とにかく、神さまはみんなのことを愛しておられる。大切に思っていてくださる。と同時に、そんな大好きなみんなからも愛されたい、って願っておられるのじゃないかな。今日はそのことを覚えてほしいな、って思います。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

- 36番
- 改訂120番
- Thuma Mina 2 の 23番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集) 詳細は [http:// www.kyobunkwan.co.jp/xbook/](http://www.kyobunkwan.co.jp/xbook/)

やってみよう

用意するもの 木材(端材等)



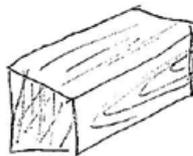
木工用紙やすり

適当

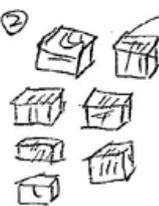
大きさは、荒りは色々
人数に応じて 牧教や
分けあって下さい

♀ → ヒートン
手袋コーナーにあり

作り方



① ホームセンターにある
白木系の端材等
窄く手を入れた



人数分
手頃な
大きさにノギリ等
で切り分ける。

③ 切りかけた木片を
子とモモに分けて
ひたす。時間内で
紙やすりでみかく。



④ 角も丸く
なめらかに作り
なつかしい感じに
する



⑤ ヒートンと
ヒリコ
キーホルダーに
油性ペンで
デザインしてみよう...

話してみよう

・普段の生活の中で神様について考えたり、お祈りしたりする時間ってどれくらいあるかな？

心の中で思いかえしてみよう。

- ・いつも愛してくださる神さま、イエスさまを感じてみよう。それにはどうすればよい？
- ・できれば皆で、今、イエスさまを感じてみよう。

★今週の聖句

だから、目を覚ましていなさい

マタイによる福音書 25章13節

★ねらい

- 今日の箇所は、終末論的要素のある譬え話です。しかし、幼い子どもたちには難しいように思われます。そこで、次のポイントが有効になるのではないのでしょうか。「物語の主眼点は、重大な瞬間がようやくやって来た時に愚かなおとめたちは準備ができていないということにある」（『現代聖書注解』マタイによる福音書 488-489頁）。つまり、「重大な瞬間」を見過ごすことなく、どのような「準備」をもってそのときを迎えるか、です。これらは何も終末論的な事柄だけに限定されないでしょう。イエスさまの招きに応える姿勢を伝えることも大切ではないのでしょうか。

★説教作成のヒント

- 上記のように、この箇所のポイントを「重大な瞬間」と「準備」におく場合、それが単なる人生訓になってしまうことを避けなければなりません。子どもたちに分かり易い（馴染み易い）切り口（下記の説教では流星群を取り上げましたが、当然、それに拘泥される必要はありません）を用いつつ、しかもそれが「神さまのとき」へと関心が向けられていくように配慮していく必要があるように思われます。

★豆知識

- この譬え話で「おとめ」と訳されている言葉は、ギリシャ語の $\pi\alpha\rho\phi\varepsilon\nu\omicron\iota\varsigma$ であり、「処女」を意味します。ここでマタイがあえて「若い女性」というギリシャ語を用いず、上記のものを用いたのには意味があるようです。つまり、第二コリント 11章2節でパウロが語ったように、キリスト者のイエスさまに対する純潔性です（『現代聖書注解』マタイによる福音書 487頁）。

★説教

みんなは流れ星って見たことある？ 夜空に星がびゅーっと線を描いて消えていく。

先生は一度、しし座流星群っていうのを見たことがあるんだ。毎年、だいたい11月くらいにあるらしいんだけど、普段はあまり流れ星って見られないじゃない？ でも、このときには、本当にいくつもいくつも流れ星が見られるんだ…。でもね、ある決まった時間しか見られないの。先生が見たときは、たしか朝の3時くらいだったかな。ある人から「今日は天気もいいし、しし座流星群が見られるよ」って聞いて、先生もなんだかちょっと見たくなくて、頑張って早起きしてみようと思ったんだ。でも、11月ってもうけっこう寒いじゃない？ 朝の3時なんていつもはぐーぐー寝ている時間だし、目覚ましは鳴っても眠くって眠くってしかたがないし、寒くってお布団からも出たくないし、「あー、もういいや。諦めて、またこのまま寝ちゃおう…」って思ったんだけど、「やっぱり、せっかくの機会だから…（今度いつ見られるか分からないし）」って思い直して、頑張って起きてみたんだ。幸い、家の窓から見えたんだけど、最初は眠さからこっくりこっくりさせながらぼーと窓の外を見ていたら、見えた…。すーと線を描いた流れ星が一個、一個、また一個と次々と見えたんだ。本当に綺麗だった…。すっかり目も覚めて、寒さも忘れて夢中になって見ていた…。

みんなも「タイミング」という言葉を知っているよね。「タイミング」…、「グッドタイミング」というのは、だいたい絶好の機会（ちょうどよい時）という意味なんだけれど、僕たち（私たち）が生きていく（生活していく）上で、そういったときが度々あるんだよね。逆に、その時を逃してしまうと、せっかくのチャンスを逃してしまうことになってなるんだ。さっきの流れ星の話しだって、あのとき、あの時間に頑張って起きなかったら先生は見逃してしまっていた。大げさだけど、あのチャンスを逃していたら一生の間、あの流れ星の素敵な景色を見ることができなかつたかも知れないよね。今日の聖書のお話しも、そんなことが言えるんじゃないかな。花婿が来る時間が思ったよりも遅くなってしまったことは残念だったけれども、ちゃんと花婿が来るときに、迎える用意の出来ていた女の人たちは、ご主人に喜ばれたよね。それと同じことが僕たち（私たち）にも言えるんだと思うんだ。花婿とはイエスさまのことなんだ。イエスさまが今、僕たち（私たち）に会いに来てくださっている…。その今を大切にしてほしいと思うんだ。もちろん、みんなが大人になっても、おじいちゃんおばあちゃんになってもイエスさまは

きっとみんなに会いに来てくださると思う。でも、せっかく今、こうしてイエスさまの話を聞いたり、賛美をしたり、礼拝しているときに、……これらはイエスさまとお会いするってことだと思っただけけれど……、イエスさまのこと信じてほしいって思うんだ。だって、イエスさまみんなのこと、大好きなんだから…。

そして、もう一つは諦めないで欲しいんだ。みんなもお祈りするよね。いろんなことを神さまにお願いする。でも、ちっとも神さまお祈りに応えてくださらないと思えるようなときだってあるんじゃないかな。でもね、神さまはちゃんとみんなのお祈りを聞いてくださっているよ。ただ、神さまのタイミングは僕たち（私たち）の思いとは違っていることも多いんだ。今日の花婿が遅れて来たようにね。でも、花婿・イエスさまは必ず来てくださったじゃない。だから、きっと、お祈りにも応えてくださるはず。だから、ちゃんと「目を覚まして」祈っていきよう…。イエスさまを信じて…。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

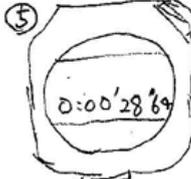
- 51番
- 改訂127番

やってみよう

用意するもの : ストップウォッチ 1ヶ.



方法

- ① これがストップウォッチで
時間を計ります。
みんなは
目を閉じて30秒に達した
手をあげて下さい。
- ② 「よーい スタート！」
- ③   ピッ!
- ④ 「28'64 でした。」 「おーい」
- ⑤ 
ピタリが出たよ みんなで拍手。

話してみよう

- ・グッドタイミング!!と思った時のことを、話してみよう。
- ・ふしぎだけど、うまく行かないと思ったのにうまく行ったことってあるかな？
ある人はそのことを、お友達に教えてあげてください。

★今週の聖句

わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである	マタイによる福音書 25章40節
--	------------------

★ねらい

- 今日の箇所、上記聖句（マタイ 25:40）をポイントとするならば、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人」とイエスさまとの連帯性が強調されることが望ましいと思います。

★説教作成のヒント

- 他の箇所とも共通するのですが、今日の箇所においても、「弱き者を助ける」といった単なる倫理・道徳的なものにならないように気をつける必要があります。イエスさまとの結びつきを無視して、倫理・道徳的なものにするのは容易いからです。教会学校の努めはイエスさまとの出会いのサポートにあると思います。ここに苦心するところがあるのですが、少しでも子どもたちと関わるイエスさまのお姿を示していけるように心がけたいものです。

★豆知識

- 皆さんも映画などで悪魔崇拝のシンボルとして「山羊」が用いられているシーンを御覧になったことがあると思います。これは、この聖書の箇所から欧米文化の中に根付いたものとも考えられているようですが、聖書を見ると、必ずしもそうではないのです。旧約聖書には様々な動物犠牲の規定が記されていますが、「山羊」は「羊」と同様に『聖い動物』として用いられてもいるからです。ですから、この箇所でも、「羊」「山羊」に何か特別な意味を読み取るのではなく、次のような解説が有効だと思います。「パレスティナにおいて羊と山羊は日中は一緒に放牧していた。夜になると、山羊は寒さをきらうので別に分けて洞穴や小屋に入れ、羊は新鮮な空気を必要とするので戸外の囲いに入れた。その習慣が素材になっている」（『新共同訳新約聖書注解 I』 日本基督教団出版局 148頁）。

★説教

みんなの中でペットを飼っている子いる？ あるいは、大好きなおもちゃや、大好きなぬいぐるみ、宝物なんてあるかな？ そんな可愛がっているペットや、大好きなおもちゃ、ぬいぐるみ、宝物がほめられたら、どんな気持ちができるかな？

「○○ちゃんちのわんわん（ねこちゃん）、本当に可愛いよね」って、誰かになでなで可愛がってもらったら、なんだか自分がほめられているようで、自分が大切にされているようで、嬉しくならない？

「あっ、だれだれくんのおもちゃ、かっこいいね」「あっ、だれだれちゃんのおおにぎょうさん、素敵ね」って言われたら、「えへへへ」ってなんだか嬉しくなっちゃうよね。

先生には息子（娘）がいるけど、その子がほめられると、やっぱり嬉しい。なんだか自分がほめられているような嬉しい気分になる。逆に、悪口なんかを言われると、自分に言われているように「カッ」と腹が立ったりする。その子が親切にされると、自分が親切にされているように、その人に感謝することができるし、逆に、いじわるなことをされると、自分がいじわるをされたように、「なんて嫌な人」って思っちゃったりする。みんなのお父さんやお母さんもきっとそうなんじゃないかな？

じゃあ、なんでそんなふうに思っちゃうんだろう。それは、きっと、その子のことが大好きだから…。大好きなペットだから、褒められると自分のことのように嬉しい。大好きなおもちゃやお人形さんだから、褒められると自分のことのように嬉しい。だから、先生は、みんなのことも大好きだから、みんなが褒められれば嬉しいし、みんなが誰かに親切にされると、本当に嬉しくなっちゃう…。ありがたいな、と思う…。

今日の聖書の箇所、イエスさまはこうおっしゃったよね。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」。イエスさまは、私たちのこと、みんなのこと大好きなんだよね。だから、みんな一人一人にされたことは、イエスさまはご自分にされたことのように嬉しいんだ、っておっしゃっておられるんだ。みんなが何かのことで褒められると、もちろん、みんなも嬉しいと思うけれど、みんなのことが大好きなイエスさまも、なんだか自分が褒められたように、嬉しくなっちゃうんだって…。みんなが誰かに親切にされると、もちろん、みんなも嬉しいと思うけれど、みんなのこと大好きなイエスさまも、なんだか自分が親切にしてもらえたように、嬉しくなっちゃうんだ。

だって…。それほど、イエスさまはみんなのことが大好きで、大切な存在だと思っておられるんだ。でも、待って…。イエスさまが僕（私）のことを大切にしてくださっているのは分かったけれど、それは僕（私）のことだけかな。そう…。違うよね。僕（私）のことも大切に思ってくださっているけれども、イエスさまは他の子のことも大切なんだよね。だから、僕たち（私たち）が誰かのいいところ見つけて褒めてあげると、イエスさまもそのことを喜んでくださる。僕たち（私たち）が誰かに親切にあげると、何か困っていたとき助けてあげると、イエスさまはそのことも本当に喜んでくださるはずだよね。逆に、僕たち（私たち）が誰かの悪口を言ったり、意地悪なことをしたり、相手の嫌なことをするという事は、もちろん、された子もすごく悲しむだろうけれど、イエスさまもまた、本当に悲しい思いをされるんじゃないかな？

みんなはイエスさまを悲しませたい？ それとも、喜んで頂きたい？

今日はみんなに、イエスさまはみんなのことを、自分のことのように喜べるほど大好きで大切に思っていてくださることを知ってほしいと思います。そして、だからこそ、みんなも、イエスさまが大切にされている人たち…。お友達を、大切にしていってほしいと思います。

★分級への展開

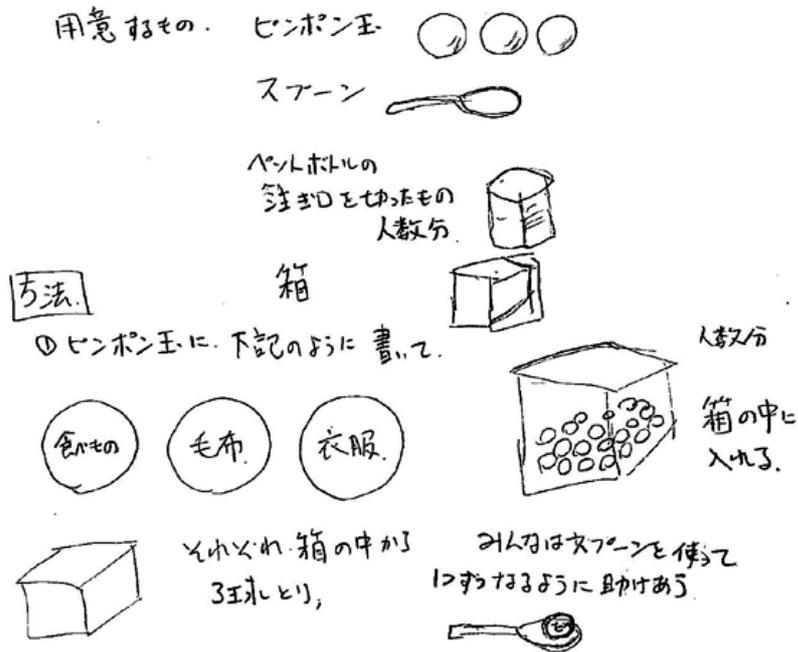
さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 35番
- 改訂124番
- Thuma Mina の29番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集) 詳細は [http:// www.kyobunkwan.co.jp/xbook/](http://www.kyobunkwan.co.jp/xbook/)

やってみよう



話してみよう

- ・イエスさまが大切に思っている、今日来ているお友だちの、良いところをお互いに伝え合おう。
- ・自分が気が付かない、お友だちや自分の良い面もあったかな？
- ・イエスさまは、良い面だけを見るのではなく、どんなみんなでも愛してくださっている。イエスさまのように、どんな人でも、どんな自分でも大切にできるようにしたいですね。「イエスさまがあなたのことを大好きと言っているよ。」と声に出して、お互いに伝えてみよう。

★今週の聖句

主がお入り用なのです

マルコによる福音書 11章3節

★ねらい

- ・ 今朝の御言葉、また教会暦からも「イエスさまをお迎えする」ということがテーマでしょうが、上記の「今週の聖句」から子ろばにスポットを当ててみました（下記説教）。ここでも、何か「子ろば」が特別な存在（能力、価値など）だから用いられたのではなく、イエスさまがその必要のために用いられる（選ばれる）ということが強調されても良いかも知れません。

★説教作成のヒント

- ・ こどもたちにも、イエスさまが自分を必要としてくださっている、自分をまいりようとしてくださっている、といった意識が芽生えるような心遣いがあると良いと思います。その子ども時代だけでなく、そのような意識が成長してからの献身へと導かれるかもしれません。

★豆知識

- ・ 「ろば」ですが、聖書中にも度々登場してくるイスラエルにとってもポピュラーな家畜です。ご存知のように英語の「donkey」には「ろば」以外に、「ばか」「強情な人」という意味もありますが、これは「ろば」の性質によるもので、馬に比べてずいぶんと従順性が欠けるためのようです。しかし、強靱さと粗食に耐えることから重宝されてきました。またイスラエル（ユダヤ）では貧富の差なく乗用として用いられ、映画『パッション』では祭司たちもろばに乗っていました。

★説教

みんなはどんなときに嬉しいと思うかな？ 誕生日のときに欲しかったものをプレゼントされたとき？ おにいさんやおねえさんにいっぱい遊んでもらったとき？ 学校で先生に褒められたとき？ 夕食に大好きなおかずがでたとき？

もちろん、それらも嬉しいことだし、嬉しいことってもっともいっぱいあると思うんだけど、先生は人の（誰かの）役に立てたときが一番（？）嬉しいんじゃないかな、って思うんだ。たとえば、お友達が落とし物をしちゃったとする。そのお友達は一生懸命探すんだけど、なかなか見つからない。とうとう泣き出しそうになっちゃった。みんなならどうする？ 知らない顔をして通り過ぎちゃう？ そうじゃないよね。「どうしたの？ 一緒にさがしてあげる」って、一生懸命に探してあげるよね。そして、見つかったら、「〇〇ちゃん、見つかったよ。良かったね」…、「うん、ほんとうにありがとう」…。そのお友達が喜んでくれたことで本当に嬉しくなっちゃう。そのお友達の役に立てたことで本当に嬉しくなっちゃうんじゃないかな。あるいは、お父さんが「新聞取って来て」、「はーい」って取ってくると、「ありがとう」…。お母さんが「そのお皿、ちょっと片付けてくれる」、「はーい」って片付けると、「ありがとう」…。ニコニコして「ありがとう」って言われると、なんだか嬉しくなってくる。自分もお父さんやお母さんの役に立てているんだって、なんだか誇らしくなってくる…。そんなことない？

もちろん、そうなんだけれど、もしイエスさまのお役に立てるとしたら、どうだろう…。今日の聖書のお話はすごく大切なお話なんだけれど、この出来事の後、その週の金曜日にイエスさまは十字架で死んでしまわれるんだ。でもね、これはイエスさまの一番の使命・お仕事だったんだ。全ての人を罪から救うために、どうしてもしなければいけない、イエスさまにしかできない神さまから与えられた使命・お仕事だったんだ。でも、そんな大事な仕事の前に、イエスさまは子ろばに乗ってエルサレムという町に入っていかれたんだよね。つまり、この子ろばは、大事な仕事を控えていたイエスさまのお役に立てたということなんだ。

みんなはろばって見たことある？ お馬さんと比べると、ずいぶん小さいよね。しかも、イエスさまが乗られたのは、子ろば。親ろばよりも、もちろん小さいし、力も弱い。でも、イエスさまのお役に立てた。みんなも確かに大人とは違うよね。大人よりもずっと小さいし、力もないかも知れない。大人ならば何でもないことでも、みんなには難しいことだって多くあるかもしれない。でも、イエスさまはきっと、みんなのことも必要とされているんじゃないかな。みんなにも手伝ってほしい、って願っておられるんじゃないかな。でも「そんなの無理だよ。僕たち（私たち）は大人の人のようなことはできない」って思っ

ちやうかも知れないよね。でも、それでいいんだ。イエスさまもみんなに大人のようなことをしてほしいとは思っておられないと思うよ。そうではなくて、みんなに出来ること、みんななら出来ることでいいんだ。だって、イエスさまが乗られたのは子ろばなんだから。子どもであるみんなだから、イエスさまは手伝ってほしい、って思っておられることがあるはずだ。だから、みんなは「イエスさまのお役に立てるようにお用ください」って祈ればいい。そして、みんなもイエスさまのお役に立てていることを感じてほしい。イエスさまはみんなにも、「礼拝のお手伝いをしてくれたのだね」「わたしの話を聞くために教会学校に来てくれたのだね」「わたしの教えを守って〇〇に親切にしてくれたのだね」「教会にお友達を誘ってくれたのだね」…、「ありがとう」って言うてくださるのじゃないかな。

みんなもイエスさまのお役に立てる。そして、イエスさまはそんなみんなのことをとっても喜んでくださっている。そのことを今日は覚えてほしいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

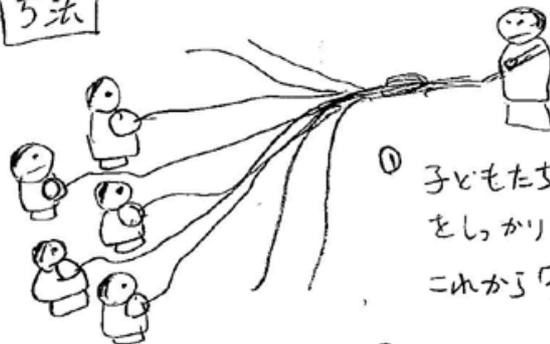
* 讚美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

- 32番
- 改訂82番

やってみよう

用意するもの。  人数分+ 4,5本。
 ロバのワッパン  人数分
 厚紙で作成

方法



- ① 子どもたちにロバのワッパンのひもつきをしっかりと持たせ。
これから「ひはるよー」という。
- ② ひはる力を感じた。
うまくたぐりませ。
「主かま入り用なんぞ」という。
- ③ ひはるめた子どもは先生のうしろに。
④ ただひものこりで笑いとる。
⑤ 全員うまくひはりあげる
⑥ かつまたる最初がやりたあし...

話してみよう

- ・イエスさまに喜んでもらえることって、どんなことがあるかな？
どんな時にそのことができそう？一人でできる？